



鶴ヶ島市シルバー人材センター



市シルバー人材センターについて



藤原 建志 議員



市から独立した組織で一部を補助

- 質問一** 補助金対象事業について
- 二 補助金の推移について。
 - 三 過去5年の総収入の自主財源と補助金の比率について。
 - 四 報酬（配分金）について。
 - 五 現時点での対応業務について。
 - 六 市からの業務委託（指定管理者を除く）と受託金額について。
 - 七 公益社団法人化の効果は。
- 答弁一（市長）** 用途の指定のない一般補助として運営費を補助している。人件費や事務所の光熱費等の経費に使用している。
- 二 平成22年度に約1043万円、23年度に約830万円、24年度に約710万円補助している。また、23年度には事務所建築費として1675万円を補助している。
 - 三 自主財源比率は、90割から95割で推移している。

- 四 業務内容により配分金単価を定めており、24年度の契約金額は約2億8425万円となっている。そのうち、配分金は約84割である。
- 五 臨時的、短期的な業務で、清掃などの一般作業分野などである。
- 六 樹木の剪定や、除草、公園や道路の管理や、清掃など24年度で約8923万円となっている。
- 七 管理運営体制の効率化、事業運営・財務改革が進展している。



自然や文化を通した体験を充実



鶴ヶ島っ子のふるさと意識の醸成

内野 嘉広 議員



- 次世代を担う子どもたちには、ふるさと鶴ヶ島の様々な角度からの体験を通してふるさと意識の醸成が大切である。
- 質問一** 夏休みなども含め、ふるさと体験学習や事業について。
- 二 市の歴史や文化との触れ合いについて。
 - 三 ふるさと意識の醸成に向けての考え方について。
- 答弁一（教育委員長）** 夏休みには市民の森の探検、野菜などの収穫体験等の催しなどを実施している。
- 二 学校のカリキュラムと連動し、収集した民具や発掘調査で出土し



市民の森で行われたツリークライミング

ツリークライミング・・・専用ロープや安全保護具を利用して木に登り、木や森、自然との一体感を味わう体験活動

- た土器や石器を活用した体験学習を実施している。ふるさとの歴史や文化を学ぶことで、ふるさとへの理解や愛着を持つ気持ちを育てていく。
- 三 急速な都市化の中、子どもたちが自然と親しむ機会が減ってきている。地域や学校とも連携して、ふるさとの自然や歴史、文化と触れる催しを通して、心の豊かさや郷土愛を育み、ふるさと意識の醸成の取り組みの充実を図っていく。
- ◎その他の質問
- 一 子どもたちの安心安全について
 - 二 行政のスリム化・健全化について